

## 第31回八方ヶ原ヒルクライムリザルト (02.10.13)

Do you enjoy bicycle life?



アンタレスじてんしゃの杜

栃木県宇都宮市岩曽町1462-50  
TEL/FAX 028-689-0195  
10:00AM ~ 8:00PM 火曜定休  
mail: bikemori@ybb.ne.jp

2002年10月13日

計測 矢部豊

小野太

高松

池本秀紀

順位	氏名	チーム	タイム
1	廣瀬佳正	チームブリヂストンアンカー	41' 10"
2	渋谷淳一	チームブリヂストンアンカー	42' 06"
3	清水裕輔	エキップアサダ	42' 21"
4	高野淳	エキップアサダ	44' 12"
5	宮崎景涼	エキップアサダ	45' 14"
6	関本耕司	宇都宮市役所四面楚歌	46' 01"
7	原田光浩	アンタレスじてんしゃの杜	47' 12"
8	増田智仁		47' 15"
9	川島賢一	PIAA FUGAK	47' 29"
10	大塚莊一		48' 06"
11	坂田敏治	Technical Art 秀工舎	49' 34"
12	齋藤宏明	ケヤキ薬局	50' 13"
13	荒川幸雄	チームワダ	51' 32"
14	河原靖斎		52' 21"
15	稻村竜一	チームワダ	53' 12"
16	岡部秀克	ニューレーシング	54' 38"
17	高松伸介		54' 45"
18	高橋伸幸	ニューレーシング	55' 12"
19	山本敏章		56' 25"
20	五十嵐修	ニューレーシング	57' 35"
21	伴肇	ニューレーシング	1h00' 31"
22	鈴木利幸		1h00' 44"
23	小林晃		1h00' 50"
24	赤荻充		1h01' 28"
25	小野寺孝	ニューレーシング	1h03' 00"
26	有村光典		1h03' 51"
27	砂川幹男	アンタレスじてんしゃの杜	1h03' 58"

空がとっても高かった10月13日、今年最後の八方ヶ原ヒルクライムは、いつもよりちょっと豪華な顔ぶれがそろった。私の店（じてんしゃの杜、宇都宮市）のそばに住んでいる、BSアンカーの廣瀬選手（来年はシマノ）、チームメイトの渋谷選手、この2週間後のジャパンカップアマチュアで1, 2フィニッシュを決めることになるエキップアサダの宮崎、清水の両選手と高野選手。以前私がサポートしていた選手が浅田さんのチームでお世話になったことが縁でお近づきになり、時々チームの選手が来てくれている。栃木県北部、矢板市近郊の八方ヶ原で94年に初めて開催してから、今では年4~5回のヒルクライムT.T.の練習会を行って、今回で31回を数える。コースは、標高差900m、距離13, 5km。ざっと乗鞍の2/3くらい。過去の記録や、その他のレースの実績から推定したタイムの遅い順に1分おきにスタートする。だから遅い人は、抜いていく速い選手の背中をみながら、速い選手は前方に現れる遅い選手を次々に抜きながらいけるので、目標ができて頑張りが利く。この練習会の楽しみ方は、自己記録の更新をねらう、仲間うちで勝ち負けをきそう、というのが基本。だから上位の表彰もなし。でも自己記録を更新した方は表彰している。有名選手が来るからといって臆する必要はない。別に彼らと競うわけではないのだから。むしろ、抜かれるときに、トップ選手の息づかいを真横で感じその背中をみながら走れる滅多にないチャンスになるはずだ。

結局この日は、参加者は34人。コースレコードを持っている廣瀬選手を筆頭に前述の5人が順当に上位を占めた。でも、他の選手もかけ離れたタイムではない。11人が50分を切ったのは過去最高だ。

28	高橋正治	ニューレーシング	1h06' 07"
29	猪瀬昌彦		1h08' 05"
30	根本高志		1h09' 20"
31	北島守	北島仙人	1h09' 47"
32	黒澤章	TCN	1h11' 53"
33	山口雅弘		1h12' 15"
34	横川創	アンタレスじてんしゃの杜	1h36' 12"
dnf.	鈴木章弘	アンタレスじてんしゃの杜	

ちなみに、過去9年間の歴代10傑は以下の通り。（2回以上の参加者は、ベストのみ、チームは当時）

1. 廣瀬佳正 BSアンカー…40' 42"
2. 竹谷賢二 スペシャライズド…41' 46"
3. 渋谷淳一 BSアンカー…42' 06"
4. 清水裕輔 エキップアサダ…42' 21"
5. 高橋祐介 アンタレスじてんしゃの杜…42' 57"
6. 高野淳 エキップアサダ…44' 12"
7. 関本耕司 宇都宮市役所四面楚歌…44' 52"
8. 宮崎景涼 エキップアサダ…45' 14"
9. 伊藤達也 カントウアンタレス…45' 44"
10. 宮塚英也 宮塚英也スポーツ研究所…45' 57"

2位の竹谷選手が、今年は、アジア大会などで参加できなかったけど、来年は出たいと言っていたので、コースレコード奪還を目指すの走りがみられるかも。